

審査意見への対応を記載した書類（9月）

（目次）国際看護学研究科 看護学専攻（M）

【設置の趣旨・目的等】

1. 【第一次専門審査意見3の回答について】

審査意見3への対応において、カリキュラム・ポリシーが改められたが、例えばディプロマ・ポリシー④で定める「グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。（国際性、研究力、看護実践力の統合）」の内容はディプロマ・ポリシー①～③に定める国際性、研究力、看護実践力を統合した能力の修得を掲げていると見受けられるものの、カリキュラム・ポリシーに、国際性、研究力、看護実践力を全て統合したものに係る記載は見受けられず、また、ディプロマ・ポリシー④に記載されている「リーダーシップをもって多職種連携を図る」旨の能力に対応するカリキュラム・ポリシーの項目も見受けられない。加えて、第一次専門審査意見3において、カリキュラム・ポリシーの各項目のそれぞれがディプロマ・ポリシーの各項目にどのように関連しているかを図を活用して説明することを求めたが、これについて対応したものと見受けられる「審査意見への対応を記載した書類」の別紙2には、ディプロマ・ポリシーを「研究力」「国際性」「看護実践力」の3つの区分で整理した内容を記載しているが、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されているディプロマ・ポリシーと記載が異なっており、ディプロマ・ポリシー④についての説明もないほか、カリキュラム・ポリシーが示されていないことから、各項目がどのように対応しているかを説明している資料とは判断できない。さらに、別紙3についても、カリキュラム・ポリシーが示されておらず、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を説明するものとはなっていない。これらのことから、依然としてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を確認することができず、カリキュラム・ポリシーの妥当性も判断できない。このため、カリキュラム・ポリシーの各項目がディプロマ・ポリシーの各項目とどのように関係し、整合しているかについて、図を活用しつつ改めて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）……………3

2. 【第一次専門審査意見4の回答について】

【第一次専門審査意見3の回答について】に対する上記の審査意見のとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性、カリキュラム・ポリシーの妥当性が依然として判断できないことから、教育課程がそれらのポリシーと整合しているか、また、妥当な教育課程となっているかも明らかではない。具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）……………10

【教育課程等】

3. 【第一次審査意見5の回答について】

ディプロマ・ポリシーにおいて示された能力は「すべての科目群において網羅的にそれぞれの能力を涵養する科目構成となっている」と説明されているが、必修科目は「特別研究科目」以外では共通科目の研究基盤科目に区分される授業科目のみであり、教育課程とディプロマ・ポリシーの関係を示した別紙3（カリキュラム・マップ）を見る限り、ディプロマ・ポリシー③に該当する授業科目は「特別研究科目」を除き、全て選択科目となっている。例えば、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の履修モデル（資料9）において「看護実践科学分野」の基盤専門看護学を選択する場合を想定すると、ディプロマ・ポリシー③に定める「グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解する」能力について、履修モデルで示されている授業科目に照らして、カリキュラム・マップにおいてディプロマ・ポリシー③に対応すると説明されている授業科目の内容をシラバスで確認する限り、「民族固有の文化や価値観」を取り扱う授業科目となっていないように見受けられる。また、「行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等」といった多岐に亘（わた）る課題を「包括的に理解する能力」を涵養（かんよう）する授業科目についても、履修モデルで示されている授業科目に照らして、カリキュラム・マップにおいてディプロマ・ポリシー③に対応すると説明されている授業科目の内容をシラバスで確認する限り、そのような内容となっていないように見受けられる等、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係の整合性について疑義がある。これらのことから、ディプロマ・ポリシーに定める能力が授業科目と適切に対応し、「看護実践科学分野」「公衆衛生看護実践科学分野」「助産実践科学分野」のいずれを選択したとしてもディプロマ・ポリシーに定める能力を適切に涵養（かんよう）できることを、【第一次専門審査意見3の回答について】及び【第一次専門審査意見4の回答について】の回答を踏まえ具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）……………16

【設置の趣旨・目的等】

(是正事項) 国際看護学研究科 看護学専攻 (M)

1. 【第一次専門審査意見3の回答について】

審査意見3への対応において、カリキュラム・ポリシーが改められたが、例えばディプロマ・ポリシー④で定める「グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。(国際性、研究力、看護実践力の統合)」の内容はディプロマ・ポリシー①～③に定める国際性、研究力、看護実践力を統合した能力の修得を掲げていると見受けられるものの、カリキュラム・ポリシーに、国際性、研究力、看護実践力を全て統合したものに係る記載は見受けられず、また、ディプロマ・ポリシー④に記載されている「リーダーシップをもって多職種連携を図る旨の能力に対応するカリキュラム・ポリシーの項目も見受けられない。加えて、第一次専門審査意見3において、カリキュラム・ポリシーの各項目のそれぞれがディプロマ・ポリシーの各項目にどのように関連しているかを図を活用して説明することを求めたが、これについて対応したものと見受けられる「審査意見への対応を記載した書類」の別紙2には、ディプロマ・ポリシーを「研究力」「国際性」「看護実践力」の3つの区分で整理した内容を記載しているが、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されているディプロマ・ポリシーと記載が異なっており、ディプロマ・ポリシー④についての説明もないほか、カリキュラム・ポリシーが示されていないことから、各項目がどのように対応しているかを説明している資料とは判断できない。さらに、別紙3についても、カリキュラム・ポリシーが示されておらず、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を説明するものとはなっていない。これらのことから、依然としてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を確認することができず、カリキュラム・ポリシーの妥当性も判断できない。このため、カリキュラム・ポリシーの各項目がディプロマ・ポリシーの各項目とどのように関係し、整合しているかについて、図を活用しつつ改めて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー④はディプロマ・ポリシー①、②、③を統合したポリシーとして作成していましたが、教育内容に基づいていない内容になっていました。そのため、ディプロマ・ポリシー④を削除しました。設置の趣旨等の書類ならびに別紙1(【別添資料9】)(カリキュラム・マップ)からディプロマ・ポリシー④の記載を削除しました。

別紙2(【別添資料6】)にカリキュラム・ポリシーの記載がないこと、別紙1(【別添資料9】)(カリキュラム・マップ)にもカリキュラム・ポリシーを示していないことなど、カリキュラム・ポリシーの各項目がディプロマ・ポリシーの各項目にどのように関連しているかについての説明が不十分でした。前回提出した別紙2(【別添資料6】)(旧)は不十分な資料となっていたため取り下げ、新たに3つのポリシーと養成する人材像の関連図を作成しました

(別紙2(【別添資料6】))。

また、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、科目群の整合性を示す別紙3(【別添資料7】)を作成し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性が取れるように改訂しました。前回提出しましたディプロマ・ポリシーには教育内容に基づいていない不適切な文言が含まれており、今回は用語に注意しながらディプロマ・ポリシーを改訂しました。また、カリキュラム・ポリシーでは本研究科の設置の目的である「国際性」「研究力」「看護実践力」を学修することを理解しやすくするために、ポリシーの形式を設置する科目別ではなく、ディプロマ・ポリシーと同じく3つの要素から書く形式に書き改めました。教育内容には変更はありませんが、3つの要素が各ポリシーに反映するように改訂いたしました。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(13 ページ)</p> <p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>① <u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u> <u>の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</u></p> <p>② <u>看護実践の場</u> <u>に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</u></p> <p>③ <u>グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u> <u>のある看護実践力を修得している。</u></p> <p>④ <u>削除</u></p> <p>国際看護学研究科の <u>3 つのポリシーと養成する人材像</u></p>	<p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>① <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u> <u>を尊重する国際性を涵養している。</u></p> <p>② <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域に内在する健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u> <u>によって、</u> <u>様々な健康課題の解決に向けた看護を探求する研究力を修得している。</u></p> <p>③ <u>グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、創造性のある看護実践力を修得している。</u></p> <p>④ <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p> <p>国際看護学研究科の <u>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー(教育課程、教育方法、教</u></p>

<p>の 関 連を【別添資料6】にまとめる。</p>	<p>員組織を含む)、アドミッション・ポリシーの関 連を【別添資料6】にまとめる。</p>
<p>(18~19 ページ)</p> <p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロ マ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通 科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成 し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業 科目を開講する。また、コースツリーを用いて教 育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編 成、教育内容、教育方法、学習成果の評価につ いては、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①削除</u></p> <p><u>①グローバル社会における看護実践の基盤となる 保健・医療・看護や健康支援の多様性への理解を 深め、対象の特性や価値観を尊重する国際性を涵 養するために、「共通科目」に国際看護の基礎を 学修する「研究基盤科目」と新しい視座を持つた めの「研究関連科目」を配置する。</u></p> <p><u>②看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学 的分析力や論理的思考力をもって解決する看護を 探求する研究力を涵養するために、国際看護学の 研究力の基礎を学修する「研究基盤科目」と、研 究の新しい視点を学修する「研究関連科目群」を 「共通科目」に配置し、修士論文を作成する「特 別研究科目」を配置する。</u></p> <p><u>③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向 けて、専門性かつ独創性のある看護を実践する能 力を涵養するために、『看護実践科学分野』・『公 衆衛生看護実践科学分野』・『助産実践科学分野』 の各分野に「専門科目」を配置する。</u></p> <p><u>⑤削除</u></p> <p><u>④学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講 義では、試験およびレポート課題を中心に評価を 行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態</u></p>	<p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロ マ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通 科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成 し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業 科目を開講する。また、コースツリーを用いて教 育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編 成、教育内容、教育方法、学習成果の評価につ いては、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①教育課程は、国際性と研究力を涵養する「共通 科目」、個人・集団・地域の多様性に沿った専門 性のある看護実践力を修得する「専門科目」、国 際性と専門性をもって健康課題の解決に向けた看 護を探求する「特別研究科目」の3区分の科目群 で構成される。</u></p> <p><u>②「共通科目」は、国内外のグローバル社会の健 康課題を探求する国際性を涵養する「研究基盤科 目」と、研究力の基礎を学修する「研究関連科目 群」で構成される。</u></p> <p><u>③「専門科目」は、『看護実践科学分野』、『公衆 衛生看護実践科学分野』、『助産実践科学分野』の 3分野で構成され、各領域における専門的研究力 を基盤として看護職者（看護師、保健師、助産 師）としての高度な看護実践力を修得する。</u></p> <p><u>④「特別研究科目」は、「共通科目」と「専門科 目」の履修を通して明確になった国際性と専門性 のある研究課題を修士論文としてまとめる科目群 である。修士論文は、指導教員以外に国際看護学 研究科教員で組織される研究科委員会において評 価する。</u></p> <p><u>⑤教育方法は、大手前大学総合学修システム el- Campus や教育・学習支援システム UNIVERSAL PASSPORT EXなどのICTを活用すると同時に、 少人数グループによる指導教員との議論を多面的 に行う。</u></p> <p><u>⑥学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講 義では、試験およびレポート課題を中心に評価を 行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態</u></p>

<p>度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p> <p>3つのポリシーと教育課程（科目群）の関連を【別添資料7】にまとめる。</p>	<p>度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p>
<p>(27～29 ページ)</p> <p>DP1. <u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u></p> <p style="text-align: center;"><u>の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニーズに対する洞察を深め、<u>価値観を尊重する国際性を基盤に課題解決に向けた看護を探究する力を修得すること</u>を述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「国際看護学特論」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、「<u>国際看護研究特論</u>」において英語力の向上と国際看護研究の基礎を学修する。さらに、「<u>看護学研究方法特論</u>」と「<u>保健データ解析特講</u>」で研究力の基礎を学修する。<u>多様な支援を提供する際に必要な、人権意識や</u> 価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「医療人類学特論」で学修するほか、「ジェンダー学特論」や「公衆衛生学特論」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「専門科目」（選択科目）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含めて理解し、<u>対象のニーズに沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</u></p> <p>DP2. <u>看護実践の場</u></p> <p>に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって<u>探求し、グローバルな視点</u></p> <p style="text-align: center;"><u>によって 様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の</p>	<p>DP1. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u></p> <p style="text-align: center;"><u>を尊重する国際性を涵養している。</u></p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ<u>文化や</u>特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニーズに対する洞察を深め、</p> <p style="text-align: center;"><u>課題解決に向けた看護を探究する力を修得すること</u>を述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「国際看護学特論」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、</p> <p style="text-align: center;"><u>多様な支援を提供する際に必要な、人権意識と文化、価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「医療人類学特論」で学修するほか、「ジェンダー学特論」や「公衆衛生学特論」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「専門科目」（選択科目）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含めて理解し、文化</u></p> <p style="text-align: center;"><u>に沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</u></p> <p>DP2. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域</u></p> <p>に内在する 健康課題を<u>洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u></p> <p style="text-align: center;"><u>によって、様々な健康課題の解決に向けた看護を探究する研究力を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の</p>

<p>健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づいて <u>看護実践を</u> 探求する研究力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。</p> <p>加えて、「研究関連科目」に「公衆衛生学特論」「健康栄養学特論」「デジタルヘルスケア特講」を配置し、新しい視点の研究を行う研究力を涵養する。さらに、「専門科目」(選択科目)の「人口学特講」「保健統計論」「疫学特講」「公衆衛生看護学レビュー」「助産研究レビュー」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。</p> <p>DP3. <u>グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u> <u>のある看護実践力を</u> 修得している。</p> <p>本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える <u>諸要因</u> <u>を理解し、専門分野の知識や技術を用いて</u> <u>多様性のある個人・集団・地域を対象にして、創造性のある健康支援に取り組む看護実践力を</u> 修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「専門科目」(選択科目)の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科</p>	<p>健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づき文化に沿った看護実践を探求する研究力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。</p> <p>さらに、「専門科目」(選択科目)の「人口学特講」「保健統計論」「疫学特講」「公衆衛生看護学レビュー」「助産研究レビュー」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。</p> <p>DP3. <u>グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を</u> 探求し、<u>創造性のある看護実践力を</u> 修得している。</p> <p>本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える <u>行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を</u> 理解し、<u>高度な職業的倫理観や使命感を持ち、行政、NGO、国際機関等の多職種と協働し、リーダーシップをもって多様性のある個人・集団・地域を対象にした</u> <u>健康支援に取り組む看護実践力を</u> 修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「専門科目」(選択科目)の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科</p>
--	--

<p>学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「特別研究科目」で専門性の高い研究を行う。</p> <p><u>DP4. 削除</u></p>	<p>学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「特別研究科目」で専門性の高い研究を行う。</p> <p><u>DP4. グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもつて多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p> <p><u>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす全ての人の健康課題を洞察し、科学的根拠をもって創造性のある地域包括ケアシステムを構築し、多職種や各種団体、組織、行政と協働し、官民一体となって、国内外の人々の健康と QOL に貢献するためのリーダーシップ力、組織力、政治力を修得することを述べている。</u></p> <p><u>このポリシーは、DP 1、DP 2、DP 3 に関連する科目を有機的に履修することで、達成される。</u></p>
<p>(58 ページ)</p> <p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に内在する多様な健康課題に高い</u> 関心を持ち、研究的視点によって看護を探求し、<u>看護実践の向上に取り組む</u> 意欲のある者。</p> <p>③<u>看護実践に根差した研究能力を修得し、</u> 広く俯瞰的に物事を捉え、<u>将来にわたって看護を探求する</u> 意欲のある者。</p> <p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤ <u>グローバル社会</u> に暮らす多様な <u>人々への健康支援に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする</u> 者。</p> <p>⑥<u>グローバル社会に暮らす多様な</u> 女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保</p>	<p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化の多様性に関心を持ち、研究的視点によって、それぞれの文化に寄り添う看護を探求することに高い関心と意欲のある者。</u></p> <p>③<u>看護の対象に影響を与える文化や社会、政治、経済に関心を持ち、広く俯瞰的に物事を捉え、文化に沿った看護を探求する研究力を修得することに意欲のある者。</u></p> <p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤<u>超少子高齢社会を内在したグローバル社会の様相とそこに暮らす多様な文化を有する人々への健康支援に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする</u> 者。</p> <p>⑥<u>グローバル社会に暮らす多様な文化を有する女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保</u></p>

健の向上に強い関心を持ち、 <u>対象のニード</u> に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。	健の向上に強い関心を持ち、 <u>それぞれの文化</u> に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。
---	--

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>① <u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u> <u>の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観</u> <u>を尊重する国際性を修得している。</u></p> <p>② <u>看護実践の場</u> <u>に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</u></p> <p>③ <u>グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u> <u>のある看護実践力を修得している。</u></p> <p>④ (削除)</p>	<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>① <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、<u>人権</u></u> <u>を尊重する国際性を涵養している。</u></p> <p>② <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域</u>に内在する <u>健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u> <u>によって、</u> <u>様々な健康課題の解決に向けた看護を探求する研究力を修得している。</u></p> <p>③ <u>グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、<u>創造性のある看護実践</u></u> <u>力を修得している。</u></p> <p>④ <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p>

(是正事項) 国際看護学研究科 看護学専攻 (M)

2. 【第一次専門審査意見4の回答について】

【第一次専門審査意見3の回答について】に対する上記の審査意見のとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性、カリキュラム・ポリシーの妥当性が依然として判断できないことから、教育課程がそれらのポリシーと整合しているか、また、妥当な教育課程となっているかも明らかではない。具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性、およびカリキュラム・ポリシーと教育課程との妥当性を示すために別紙3(【別添資料7】)を作成しました。別紙3(【別添資料7】)では本研究科の設置の目的である、看護職者が「国際性」と「研究力」を修得し、より良い看護に向けた取り組みと多様性を考慮した看護を实践する「看護実践力」を高める教育であることが分かるように、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの関連、およびカリキュラム・ポリシーと科目編成との関係が分かるように書き改めました。また、別紙1(【別添資料9】)(カリキュラム・マップ)の再検討とディプロマ・ポリシーの改訂を行いました。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(13 ページ)</p> <p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>①グローバル社会における看護実践の基盤となる <u>保健・医療・看護や健康支援</u> の多様性を理解し、<u>看護や医療に関する幅広い知識と倫理観</u>を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</p> <p>②看護実践の場 内に在する <u>多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</u></p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、<u>専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u>のある看護実践</p>	<p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>①グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、<u>規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u>を尊重する国際性を涵養している。</p> <p>②グローバル社会に暮らす個人・集団・地域に内在する <u>健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u>によって、<u>様々な健康課題の解決に向けた看護を探究する研究力を修得している。</u></p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で<u>健康課題の解決策を探究し、創造性のある看護実践</u></p>

<p>力を修得している。</p> <p><u>④削除</u></p> <p>国際看護学研究科の<u>3つのポリシーと養成する人材像</u>の関連を【別添資料6】にまとめる。</p>	<p>力を修得している。</p> <p><u>④グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p> <p>国際看護学研究科の<u>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー（教育課程、教育方法、教員組織を含む）、アドミッション・ポリシー</u>の関連を【別添資料6】にまとめる。</p>
<p>(18～19 ページ)</p> <p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、コースツリーを用いて教育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編成、教育内容、教育方法、学習成果の評価については、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①削除</u></p> <p><u>①グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性への理解を深め、対象の特性や価値観を尊重する国際性を涵養するために、「共通科目」に国際看護の基礎を学修する「研究基盤科目」と新しい視座を持つための「研究関連科目」を配置する。</u></p> <p><u>②看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力をもって解決する看護を探究する研究力を涵養するために、国際看護学の研究力の基礎を学修する「研究基盤科目」と、研究の新しい視点を学修する「研究関連科目群」を「共通科目」に配置し、修士論文を作成する「特別研究科目」を配置する。</u></p> <p><u>③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門性かつ独創性のある看護を実践する能力を涵養するために、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』</u></p>	<p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、コースツリーを用いて教育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編成、教育内容、教育方法、学習成果の評価については、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①教育課程は、国際性と研究力を涵養する「共通科目」、個人・集団・地域の多様性に沿った専門性のある看護実践力を修得する「専門科目」、国際性と専門性をもって健康課題の解決に向けた看護を探究する「特別研究科目」の3区分の科目群で構成される。</u></p> <p><u>②「共通科目」は、国内外のグローバル社会の健康課題を探究する国際性を涵養する「研究基盤科目」と、研究力の基礎を学修する「研究関連科目群」で構成される。</u></p> <p><u>③「専門科目」は、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3分野で構成され、各領域における専門的研究力を基盤として看護職者（看護師、保健師、助産師）としての高度な看護実践力を修得する。</u></p> <p><u>④「特別研究科目」は、「共通科目」と「専門科目」の履修を通して明確になった国際性と専門性のある研究課題を修士論文としてまとめる科目群である。修士論文は、指導教員以外に国際看護学</u></p>

<p>の各分野に「専門科目」を配置する。</p> <p>⑤削除</p> <p>④学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講義では、試験およびレポート課題を中心に評価を行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p> <p>3つのポリシーと教育課程（科目群）の関連を【別添資料7】にまとめる。</p>	<p>研究科教員で組織される研究科委員会において評価する。</p> <p>⑤教育方法は、大手前大学総合学修システム el-Campus や教育・学習支援システム UNIVERSAL PASSPORTEX などの ICT を活用すると同時に、少人数グループによる指導教員との議論を多面的に行う。</p> <p>⑥学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講義では、試験およびレポート課題を中心に評価を行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p>
<p>(27～29 ページ)</p> <p>DP1. <u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u></p> <p>の多様性を理解し、<u>看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニーズに対する洞察を深め、<u>価値観を尊重する国際性を基盤に課題解決に向けた看護を探究する力を修得すること</u>を述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「<u>国際看護学特論</u>」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、「<u>国際看護研究特論</u>」において英語力の向上と国際看護研究の基礎を学修する。さらに、「<u>看護学研究方法特論</u>」と「<u>保健データ解析特講</u>」で研究力の基礎を学修する。多様な支援を提供する際に必要な、<u>人権意識や</u> 価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「<u>医療人類学特論</u>」で学修するほか、「<u>ジェンダー学特論</u>」や「<u>公衆衛生学特論</u>」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「<u>専門科目</u>」（選択科目）の『<u>看護実践科学分野</u>』『<u>公衆衛生看護実践科学分野</u>』『<u>助産実践科学分野</u>』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含</p>	<p>DP1. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u></p> <p>を尊重する国際性を涵養している。</p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ<u>文化や</u>特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニーズに対する洞察を深め、</p> <p>課題解決に向けた看護を探究する力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「<u>国際看護学特論</u>」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、</p> <p>多様な支援を提供する際に必要な、<u>人権意識と文化、</u>価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「<u>医療人類学特論</u>」で学修するほか、「<u>ジェンダー学特論</u>」や「<u>公衆衛生学特論</u>」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「<u>専門科目</u>」（選択科目）の『<u>看護実践科学分野</u>』『<u>公衆衛生看護実践科学分野</u>』『<u>助産実践科学分野</u>』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含</p>

<p>めて理解し、<u>対象のニード</u>に沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</p> <p>DP2. <u>看護実践の場</u> に内在する<u>多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点</u> によって <u>様々な健康課題の改善</u>に取り組むための<u>基礎的研究力</u>を修得している。</p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づいて <u>看護実践を探求する研究力</u>を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。</p> <p>加えて、「研究関連科目」に「<u>公衆衛生学特論</u>」「<u>健康栄養学特論</u>」「<u>デジタルヘルスケア特講</u>」を配置し、<u>新しい視点の研究を行う研究力</u>を涵養する。さらに、「<u>専門科目</u>」(選択科目)の「<u>人口学特講</u>」「<u>保健統計論</u>」「<u>疫学特講</u>」「<u>公衆衛生看護学レビュー</u>」「<u>助産研究レビュー</u>」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。</p> <p>DP3. <u>グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u> のある看護実践力を修得している。</p> <p>本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える<u>諸要因</u></p>	<p>めて理解し、<u>文化</u>に沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</p> <p>DP2. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域</u> に内在する <u>健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u> によって、<u>様々な健康課題の解決に向けた看護を探求する研究力</u>を修得している。</p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づき<u>文化に沿った看護実践を探求する研究力</u>を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。</p> <p>さらに、「<u>専門科目</u>」(選択科目)の「<u>人口学特講</u>」「<u>保健統計論</u>」「<u>疫学特講</u>」「<u>公衆衛生看護学レビュー</u>」「<u>助産研究レビュー</u>」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。</p> <p>DP3. <u>グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、創造性のある看護</u> 実践力を修得している。</p> <p>本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える<u>行政システム、政治、経済、自然環境、民</u></p>
--	---

<p>を理解し、<u>専門分野の知識や技術を用いて</u></p> <p>多様性のある個人・集団・地域を対象にして、<u>創造性のある健康支援に取り組む看護実践力を修得</u>することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「<u>専門科目</u>」（<u>選択科目</u>）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「<u>特別研究科目</u>」で専門性の高い研究を行う。</p> <p><u>DP4. 削除</u></p>	<p><u>族固有の文化や価値観等を理解し、高度な職業的倫理観や使命感を持ち、行政、NGO、国際機関等の多職種と協働し、リーダーシップをもって多様性のある個人・集団・地域を対象にした</u></p> <p>健康支援に取り組む看護実践力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「<u>専門科目</u>」（<u>選択科目</u>）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「<u>特別研究科目</u>」で専門性の高い研究を行う。</p> <p><u>DP4. グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p> <p><u>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす全ての人々の健康課題を洞察し、科学的根拠をもって創造性のある地域包括ケアシステムを構築し、多職種や各種団体、組織、行政と協働し、官民一体となって、国内外の人々の健康と QOL に貢献するためのリーダーシップ力、組織力、政治力を修得することを述べている。</u></p> <p><u>このポリシーは、DP 1、DP 2、DP 3 に関連する科目を有機的に履修することで、達成される。</u></p>
<p>(58 ページ)</p> <p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に内在する多様な健康課題に高い</u> <u>関心を持ち、研究的視点によって看護を探求し、看護実践の向上に取り組む</u> <u>意欲のある者。</u></p> <p>③<u>看護実践に根差した研究能力を修得し、</u> <u>広く俯瞰的に物事を捉え、将来にわたって看護を探求する</u> <u>意欲のある者。</u></p>	<p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化の多様性に関心を持ち、研究的視点によって、それぞれの文化に寄り添う看護を探求することに高い関心と意欲のある者。</u></p> <p>③<u>看護の対象に影響を与える文化や社会、政治、経済に関心を持ち、広く俯瞰的に物事を捉え、文化に沿った看護を探求する研究力を修得することに意欲のある者。</u></p>

<p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤ <u>グローバル社会</u>に暮らす多様な人々への健康支援に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする者。</p> <p>⑥グローバル社会に暮らす多様な女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保健の向上に強い関心を持ち、<u>対象のニード</u>に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。</p>	<p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤<u>超少子高齢社会を内在したグローバル社会の様相とそこに暮らす多様な文化を有する人々への健康支援</u>に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする者。</p> <p>⑥グローバル社会に暮らす多様な文化を有する女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保健の向上に強い関心を持ち、<u>それぞれの文化</u>に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。</p>
--	--

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>①<u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u>の多様性を理解し、<u>看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観</u>を尊重する国際性を<u>修得</u>している。</p> <p>②<u>看護実践の場</u>に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、<u>グローバルな視点</u>によって様々な健康課題の<u>改善に取り組むための基礎的研究力</u>を修得している。</p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題の<u>解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u>のある看護実践力を修得している。</p> <p>④(削除)</p>	<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>①<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u>を尊重する国際性を<u>涵養</u>している。</p> <p>②<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域</u>に内在する健康課題を<u>洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u>によって、様々な健康課題の解決に向けた看護を<u>探求する研究力</u>を修得している。</p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題に<u>影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、創造性のある看護実践力</u>を修得している。</p> <p>④<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力</u>を修得している。</p>

【教育課程等】

(是正事項) 国際看護学研究科 看護学専攻 (M)

3. 【第一次審査意見5の回答について】

ディプロマ・ポリシーにおいて示された能力は「すべての科目群において網羅的にそれぞれの能力を涵養する科目構成となっている」と説明されているが、必修科目は「特別研究科目」以外では共通科目の研究基盤科目に区分される授業科目のみであり、教育課程とディプロマ・ポリシーの関係を示した別紙3(カリキュラム・マップ)を見る限り、ディプロマ・ポリシー③に該当する授業科目は「特別研究科目」を除き、全て選択科目となっている。例えば、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の履修モデル(資料9)において「看護実践科学分野」の基盤専門看護学を選択する場合を想定すると、ディプロマ・ポリシー③に定める「グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解する」能力について、履修モデルで示されている授業科目に照らして、カリキュラム・マップにおいてディプロマ・ポリシー③に対応すると説明されている授業科目の内容をシラバスで確認する限り、「民族固有の文化や価値観」を取り扱う授業科目となっていないように見受けられる。また、「行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等」といった多岐に亘(わた)る課題を「包括的に理解する能力」を涵養(かんよう)する授業科目についても、履修モデルで示されている授業科目に照らして、カリキュラム・マップにおいてディプロマ・ポリシー③に対応すると説明されている授業科目の内容をシラバスで確認する限り、そのような内容となっていないように見受けられる等、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係の整合性について疑義がある。これらのことから、ディプロマ・ポリシーに定める能力が授業科目と適切に対応し、「看護実践科学分野」「公衆衛生看護実践科学分野」「助産実践科学分野」のいずれを選択したとしてもディプロマ・ポリシーに定める能力を適切に涵養(かんよう)できることを、【第一次専門審査意見3の回答について】及び【第一次専門審査意見4の回答について】の回答を踏まえ具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー③の記載内容は各分野の修了生が全員共通に学修する内容にはなっていませんでした。また、別紙1(【別添資料9】)は各ポリシーを達成するための重要度を示しておらず、不適切な内容となっていました。ディプロマ・ポリシー全体を見直し、同時に教育課程の内容との整合性が取れるように別紙1(【別添資料9】)(カリキュラム・マップ)を改訂いたしました。新しいディプロマ・ポリシー③で述べている看護実践力の専門性は『看護実践科学分野』、『公衆衛生看護実践科学分野』、『助産実践科学分野』の3分野の専門科目で修得します。また、専門性のある看護研究を通して独創性のある看護実践力の学修は「研究基盤科目」と「研究関連科目」でも行います。これらの点を理解できるように別紙1(【別添資料9】)のディプロマ・ポリシーを達成するために最も重要な科目と重要な科目の見直しを行い、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目の関連を示す図(別紙3(【別添資料7】))を作成しました。

『看護実践科学分野』、『公衆衛生看護実践科学分野』、『助産実践科学分野』のいずれを選択したとしてもディプロマ・ポリシーに定める能力を適切に修得できることを、別紙1(【別添資料9】)(カリキュラム・マップ)に示しました。ディプロマ・ポリシー①は「研究基盤科目」と「研究関連科目」で国際看護学に関連する国際性の基礎を学修し、各専門科目での国際性の学修の基盤となるようにしました。ディプロマ・ポリシー②は「研究基盤科目」で国際看護学の研究力の基礎を、「研究関連科目」で研究の新しい視点を学修し、「特別研究科目」での修士論文の作成を行うことで研究力を修得します。ディプロマ・ポリシー①と②については、専門科目にも重要な科目を配置しております。ディプロマ・ポリシー③の看護実践力は各学生が選択する専門科目で修得しますが、国際性のある看護実践力を修得するために重要な国際看護学特論や「研究関連科目」を配置しました。

設置の趣旨等を記載した書類【別添資料10】(履修モデル)に示しますように、共通科目の研究基盤科目4科目は必修科目、研究関連科目では5科目から8単位以上を選択します。また、特別研究科目も必修科目としています。『看護実践科学分野』、『公衆衛生看護実践科学分野』、『助産実践科学分野』のいずれを選択したとしてもディプロマ・ポリシーに定める能力を修得できることを示すために、設置の趣旨等を記載した書類の本文中に履修方法についての説明を追記いたしました。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(3 ページ)</p> <p>保健医療領域にとどまらない あらゆる状況や事象に内在する疾病構造や健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力と、その健康課題の解決に向けて多職種と連携しながら対象の<u>ニード</u>に沿った看護を具現化できる専門性のある看護実践力を有する高度な人材育成が急務であることが、国際看護学部教員が臨地スタッフとともに実践してきた看護教育や共同研究を通して明確になった。</p>	<p>保健医療領域にとどまらず政治、経済、社会、教育、文化等のあらゆる状況や事象に内在する疾病構造や健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力と、その健康課題の解決に向けて多職種と連携しながら対象の<u>文化</u>に沿った看護を具現化できる専門性のある看護実践力を有する高度な人材育成が急務であることが、国際看護学部教員が臨地スタッフとともに実践してきた看護教育や共同研究を通して明確になった。</p>
<p>(5 ページ)</p> <p>そのため、多様な <u>背景</u>をもつ個人・集団・地域の特性を理解して受容し、内在する健康課題を洞察して顕在化させる研究力と、学部教育では学修できない<u>多様性を考慮した看護</u>の調整・管理や人的資源の活用の方法</p> <p>を学修することで、多職種と協働して人々の<u>ニード</u>に沿った看護実践を探究する態度を基盤としてリーダーシップをもって健康課題解決に取り組む看護実践力を有する人材を育成することが、</p>	<p>そのため、多様な<u>文化的背景</u>をもつ個人・集団・地域の特性を理解して受容し、内在する健康課題を洞察して顕在化させる研究力と、学部教育では学修できない<u>異文化間</u>の調整・管理や人的資源の活用の方法、<u>行政システムや政治、経済からの影響、自然環境や民族固有の文化や価値観</u>を学修することで、多職種と協働して人々の<u>文化</u>に沿った看護実践を探究する態度を基盤としてリーダーシップをもって健康課題解決に取り組む看護実践力を有する人材を育成することが、</p>

<p>本研究科開設の社会的意義であると考える。</p>	<p>本研究科開設の社会的意義であると考える。</p>
<p>(6 ページ)</p> <p>多様な 背景をもつ個人・集団・地域の特性を理解し、それぞれが有する<u>価値観</u>を尊重し、そこに内在する健康課題を顕在化させる研究力と、健康に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉えることで人々の<u>ニード</u>に沿った看護実践を探求し、多職種との協働の中でリーダーシップをもって健康課題解決に取り組むことができる看護実践力を有する人材を育成することが、本学に国際看護学研究科を設置する必要性である。</p>	<p>多様な<u>文化的</u>背景をもつ個人・集団・地域の特性を理解し、それぞれが有する<u>文化</u>を尊重し、そこに内在する健康課題を顕在化させる研究力と、健康に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉えることで人々の<u>文化</u>に沿った看護実践を探求し、多職種との協働の中でリーダーシップをもって健康課題解決に取り組むことができる看護実践力を有する人材を育成することが、本学に国際看護学研究科を設置する必要性である。</p>
<p>(9 ページ)</p> <p>国内外のグローバル社会において、 個人・集団・地域の多様な特性を理解することのできる国際性、そこに内在する健康課題とその課題に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉えることによって課題解決の方法を探求する研究力、基本的人権意識、高潔な倫理観、使命感を持ち、高い志をもって包摂社会を希求し、多職種と協働しながら、多様な<u>ニード</u>に沿った専門性の高い看護実践力を涵養する。そして、研究、教育、実践の場において多様性を尊重する視点をもって看護の探求を継続し、研究成果に裏打ちされた看護実践を主体的に展開することで看護学の深奥を究め、広く国際社会や地域社会に貢献することを教育理念とする。</p>	<p>国内外のグローバル社会において、<u>文化の影響</u>を受けて存在する個人・集団・地域の 特性を理解することのできる国際性、そこに内在する健康課題とその課題に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉えることによって課題解決の方法を探求する研究力、基本的人権意識、高潔な倫理観、使命感を持ち、高い志をもって包摂社会を希求し、多職種と協働しながら、多様な<u>文化</u>に沿った専門性の高い看護実践力を涵養する。そして、研究、教育、実践の場において<u>文化的</u> 視点をもって看護の探求を継続し、研究成果に裏打ちされた看護実践を主体的に展開することで看護学の深奥を究め、広く国際社会や地域社会に貢献することを教育理念とする。</p>
<p>(9~10 ページ)</p> <p>本研究科の教育理念を達成するために、科目区分は看護の対象となる個人・集団・地域を<u>多様性の理解</u>と人権を尊重することによって捉える国際性と、複雑多岐にわたる健康課題を顕在化し、その課題解決を探求する研究力を涵養するための「共通科目」、及び対象の<u>ニード</u> に沿った専門性に裏打ちされた看護実践力を修得する「専門科目」で構成する。</p> <p><u>多様性</u> を理解して尊重するための国際性と課題解決を探求する研究力の基礎を涵養する「共通科目」には「研究基盤科目」群と「研究関連科目」群を配置し、日本国内外における多様な <u>価値観、習慣、規範</u> 等への洞察を深めながら国際的な視座の涵養を図り、現地の人々の視点による課題解決に向けた研究力を培う。また、<u>グローバル社会</u> の中で共存する際の葛藤やジレンマ等への理解を深め、包摂社会の実現に向けて高潔な倫理観と人権意識</p>	<p>本研究科の教育理念を達成するために、科目区分は看護の対象となる個人・集団・地域を<u>文化との関係</u> によって捉える国際性と、複雑多岐にわたる健康課題を顕在化し、その課題解決を探求する研究力を涵養するための「共通科目」、及び対象が<u>求める文化</u>に沿った専門性に裏打ちされた看護実践力を修得する「専門科目」で構成する。</p> <p>多様な<u>文化</u>を理解して尊重するための国際性と課題解決を探求する研究力の基礎を涵養する「共通科目」には「研究基盤科目」群と「研究関連科目」群を配置し、日本国内外における多様な<u>文化</u>を理解し、そこで醸成された<u>価値観、習慣、規範</u>等への洞察を深めながら国際的な視座の涵養を図り、現地の人々の視点による課題解決に向けた研究力を培う。また、<u>本国以外の異なる文化</u>の中で共存する際の葛藤やジレンマ等への理解を深め、包摂社会の実現に向けて高潔な倫理観と人権意識</p>

<p>を涵養する。</p> <p>「専門科目」には、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの分野を配置し、看護の対象となる個人・集団・地域がもつ多様性を理解し尊重する国際性を基盤とした各専門領域の研究力を涵養し、対象の健康課題に影響を与える複雑に絡み合った諸要因を紐解き、専門の知識をもって多職種と連携し、リーダーシップをもって対象のニードに対応できる看護実践力を修得する。『看護実践科学分野』には、「基盤専門看護学」「生涯発達看護学」「国際地域看護学」の科目群を配置し、それぞれの対象がもつ多様な価値観や習慣、規範等への理解を基盤として、医療機関や地域、在宅等の臨床や地域での生活場面にみられる健康課題とその健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力と、多職種との連携によって課題解決に取り組み、エビデンスに基づく看護実践力を修得する。</p>	<p>を涵養する。</p> <p>「専門科目」には、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの分野を配置し、看護の対象となる個人・集団・地域がもつ多様な文化の特徴を理解し尊重する国際性を基盤とした各専門領域の研究力を涵養し、対象の健康課題に影響を与える複雑に絡み合った諸要因を紐解き、専門の知識をもって多職種と連携し、リーダーシップをもって対象の文化に考慮した看護実践力を修得する。『看護実践科学分野』には、「基盤専門看護学」「生涯発達看護学」「国際地域看護学」の科目群を配置し、それぞれの対象がもつ文化的相違によって醸成された多様な価値観や習慣、規範等への理解を基盤として、医療機関や地域、在宅等の臨床や地域での生活場面にみられる健康課題とその健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力と、リーダーシップや多職種連携の方略をもって課題解決に取り組み、エビデンスに基づく看護実践力を修得する。</p>
<p>(10 ページ)</p> <p>以上、「共通科目」と「専門科目」にある3つの分野の科目群を配置し、講義、演習、実習を通して、多様な背景を有する人々が暮らすグローバル社会において、そこに内在する超高齢少子問題や、都市部の単身高齢者や貧困問題、および定住外国人に付随する様々な健康課題を洞察し、顕在化させる研究力を養う。</p>	<p>以上、「共通科目」と「専門科目」にある3つの分野の科目群を配置し、講義、演習、実習を通して、多様な文化的背景を有する人々が暮らすグローバル社会において、そこに内在する超高齢少子問題や、都市部の単身高齢者や貧困問題、および定住外国人に付随する文化的要因による様々な健康課題を洞察し、顕在化させる研究力を養う。</p>
<p>(10 ページ)</p> <p>また、国際感覚をもった看護専門職の人材育成を行うことで、グローバル化した臨床現場で活躍する看護管理者や看護職リーダー、教育機関や職能団体で活躍する看護研究・教育者、および看護系技官、検疫官、法務技官等の看護行政職として、国内外で広く活躍できる人材を育成することが本研究科の目的である。</p>	<p>また、国際感覚をもった看護専門職の人材育成を行うことで、グローバル化した臨床現場で活躍する看護管理者や看護職リーダー、教育機関や職能団体で活躍する看護研究・教育者、および看護系技官、検疫官、法務技官等の看護行政職や政治家として、国内外で広く活躍できる人材を育成することが本研究科の目的である。</p>
<p>(11 ページ)</p> <p>図 大手前大学大学院国際看護学研究科看護学専攻における教育の概念図：</p> <p>グローバル社会の多様性を尊重した看護を探求する国際性、研究力、看護実践力を有する専門職者</p> <p>専門科目 看護実践力</p>	<p>図 大手前大学大学院国際看護学研究科看護学専攻における教育の概念図：</p> <p>グローバル社会の多様な文化に沿った看護を探求する国際性、研究力、看護実践力を有する専門職者</p> <p>専門科目 文化に沿った看護実践力</p>

(12 ページ)

本研究科では、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な背景を有する人々が暮らすグローバル社会において、

醸成された人々の生活や価値観を理解し尊重する国際性を持ち、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を探求する研究力を修得する。さらに、人々の健康に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉え、多職種と協働しながら地域の人的資源を活用し、

対象のニードに沿った看護実践力を有する人材を養成する。具体的には、看護実践のリーダー、看護管理者、看護研究・教育者、看護行政職（看護系技官、検疫官、刑務官看護師など）、国際保健関連機関（JICA 専門家など）、職能団体役員などを想定している。さらに様々な経歴を重ねることによって国内外の国際保健医療政策の発展に貢献できる人材となることを期待している。

『看護実践科学分野』では、保健師、助産師、看護師の資格取得者（資格取得見込みも含む）の3つの専門職を対象に、前述した国際性、研究力、看護実践力を有する看護職リーダーや看護管理職、教育や研究を推進する看護系教員、地方自治体や国レベルの行政サービスの質向上や評価に貢献する看護行政職を養成する。また、看護専門職能団体において地方自治体等との連携を図り、官民一体での協働した健康支援を推進できる人材を養成する。さらに、保健、福祉分野に係る国際保健関連機関と連携し、開発途上国への技術移転などを通じた国際協力に貢献できる人材を養成する。

『公衆衛生看護実践科学分野』では、国際性と研究力を基盤とした保健師を養成する。将来的には、統括保健師や検疫官等として地方自治体の保健師と連携して公衆衛生活動が行える人材やグローバル化が進む国際社会での感染症対策などに貢献できる人材となることを期待する。また、外国人労働者を多く雇用する企業において、労働環境の向上やメンタルヘルスケアへの対応が行える産業保健師や、グローバル社会における地域住民の健康サービスの評価とヘルスシステムの再構築を探求し、保健医療福祉行政の政策提言が行える看護系技官や職能団体の役員、さらには地方自治体や国レベルでの政策立案を行う

本研究科では、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な文化的背景を有する人々が暮らすグローバル社会において、それぞれの文化によつて醸成された人々の生活や価値観、規範等を理解し尊重する国際性を持ち、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を探求する研究力を修得する。さらに、人々の健康に影響を与える文化的背景にある諸要因を俯瞰的に捉え、多職種と協働しながら地域の人的資源を有効活用し、異文化間に存在する看護の相違を調整することによつて対象の文化に沿った看護実践力を有する人材を養成する。具体的には、看護実践のリーダー、看護管理者、看護研究・教育者、看護行政職（看護系技官、検疫官、刑務官看護師など）、国際保健関連機関（JICA 専門家など）、職能団体役員、政治家などを想定している。さらに様々な経歴を重ねることによって国内外の国際保健医療政策の発展に貢献できる人材となることを期待している。

『看護実践科学分野』では、保健師、助産師、看護師の資格取得者（資格取得見込みも含む）の3つの専門職を対象に、前述した国際性、研究力、看護実践力を有する看護職リーダーや看護管理職、教育や研究を推進する看護系教員、地方自治体や国レベルの行政サービスの質向上や評価に貢献する看護行政職や政治家を養成する。また、看護専門職能団体において地方自治体等との連携を図り、官民一体での協働した健康支援を推進できる人材を養成する。さらに、保健、福祉分野に係る国際保健関連機関と連携し、開発途上国への技術移転などを通じた国際協力に貢献できる人材を養成する。

『公衆衛生看護実践科学分野』では、国際性と研究力を基盤とした保健師を養成する。将来的には、統括保健師や検疫官等として地方自治体の保健師と連携して公衆衛生活動が行える人材やグローバル化が進む国際社会での感染症対策などに貢献できる人材となることを期待する。また、外国人労働者を多く雇用する企業において、労働環境の向上やメンタルヘルスケアへの対応が行える産業保健師や、グローバル社会における地域住民の健康サービスの評価とヘルスシステムの再構築を探求し、保健医療福祉行政の政策提言が行える看護系技官や職能団体の役員、さらには地方自治体や国レベルでの政策立案を行う政治家として活

<p>人材養成を行う。</p> <p>『助産実践科学分野』では、国際性と研究力を基盤とした助産師を養成する。特に、自国と異なる文化で妊娠、出産、子育てをする女性が持つジレンマを理解した上で、困惑や葛藤に起因する課題解決に向けて関連諸政策の知識をもって、多職種と協働し、対象の<u>ニード</u>に沿った助産実践が行える助産師として活躍することを期待する。</p>	<p>動する人材養成を行う。</p> <p>『助産実践科学分野』では、国際性と研究力を基盤とした助産師を養成する。特に、自国と異なる文化で妊娠、出産、子育てをする女性が持つジレンマを理解した上で、困惑や葛藤に起因する課題解決に向けて関連諸政策の知識をもって、多職種と協働し、対象の<u>文化</u>に沿った助産実践が行える助産師として活躍することを期待する。</p>
<p>(13 ページ)</p> <p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>①グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</p> <p>②看護実践の場 内に存在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性のある看護実践力を修得している。</p> <p>④削除</p> <p>国際看護学研究科の <u>3</u> つのポリシーと養成する人材像の関連を【別添資料6】にまとめる。</p>	<p>5. ディプロマ・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士（看護学）の学位を授与する。</p> <p>①グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、<u>人権</u>を尊重する国際性を涵養している。</p> <p>②グローバル社会に暮らす個人・集団・地域に内在する健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力によって、様々な健康課題の解決に向けた看護を探究する研究力を修得している。</p> <p>③グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、<u>創造性</u>のある看護実践力を修得している。</p> <p>④グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</p> <p>国際看護学研究科の <u>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー（教育課程、教育方法、教員組織を含む）、アドミッション・ポリシー</u>の関連を【別添資料6】にまとめる。</p>
<p>(13~14 ページ)</p> <p>本研究科には主に 3 つの特色がある。第一には、看護の対象がもつ多様性を理解し、<u>価値観</u>を尊重する国際性、グローバル社会に内在する健康課題を顕在化させ、課題解決に取り組む研究力、健康に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉え、リーダーシップをもって多</p>	<p>本研究科には主に 3 つの特色がある。第一には、看護の対象がもつ多様性のある<u>文化</u>を理解し、尊重する国際性、グローバル社会に内在する健康課題を顕在化させ、<u>文化的視座</u>をもって課題解決に取り組む研究力、健康に影響を与える諸要因を俯瞰的に捉え、リーダーシップをもって多</p>

<p>職種と協働し、対象が求める<u>ニード</u>に沿った看護を探求する看護実践力を涵養する教育課程である。</p>	<p>職種と協働し、対象が求める文化 に沿った看護を探求する看護実践力を涵養する教育課程である。</p>
<p>(14 ページ) この科目群では、グローバル社会における 個人や集団・組織、地域が持つ特性や規範、価値観、信念等が決定されることを理解し、尊重する国際性と、対象の健康課題に影響を与える 諸要因を俯瞰的に捉え、対象の<u>ニード</u> に沿った看護を提供するために、対象が求める看護を探求する国際標準の看護研究方法を教授し、国際看護学の基本を修得させる。</p>	<p>この科目群では、グローバル社会における<u>多様な文化と、その文化的影響を受けて個人や集団・組織、地域が持つ特性や規範、価値観、信念等が決定されることを理解し、尊重する国際性と、対象の健康課題に影響を与える保健医療領域、政治、経済、教育等の諸要因を俯瞰的に捉え、対象の文化</u> に沿った看護を提供するために、対象が求める看護を探求する国際標準の看護研究方法を教授し、国際看護学の基本を修得させる。</p>
<p>(14～15 ページ) また、外国人労働者とその家族や子ども達の諸問題についての知識を学修するために、「学校保健論」「産業保健論」「ハイリスク事例支援論」「コミュニティネットワーク論」「地域ケアシステム論」「グローバルコミュニティ実習」を配置し、公衆衛生看護の<u>実践力</u>と国際性に関する知識が学修できる科目配置となっている。</p>	<p>また、外国人労働者とその家族や子ども達の諸問題についての知識を学修するために、「学校保健論」「産業保健論」「ハイリスク事例支援論」「コミュニティネットワーク論」「地域ケアシステム論」「グローバルコミュニティ実習」を配置し、公衆衛生看護学 と国際性に関する知識が学修できる科目配置となっている。</p>
<p>(15 ページ) 本研究科の科目配置とその内容は、<u>多様性を理解し、価値観を</u> 尊重しながら 看護を探求する国際性と研究力に加えて、健康課題に影響を与える 諸要因を俯瞰的に捉え、<u>創造性のある看護実践力</u> を涵養する科目編成となっており、本研究科の最も重要な教育の特色である。</p>	<p>本研究科の科目配置とその内容は、<u>多様性のある対象に対して、その文化を理解、尊重しながら、其々の文化に沿った看護を探求する国際性と研究力</u>に加えて、健康課題に影響を与える医療福祉領域や政治、経済、教育等の諸要因を俯瞰的に捉え、<u>リーダーシップをもって多職種と協働、調整しながら政策提言が行える高い看護の専門性</u>を涵養する科目編成となっており、本研究科の最も重要な教育の特色である。</p>
<p>(17 ページ) 本研究科は、看護師国家資格取得者（取得見込みも含む）を対象に、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの専門分野を設置し、多様な 背景を有する個人・集団・地域の持つ特性を理解し、<u>価値観を尊重する国際性と、多様な</u> 対象がもつ健康課題を顕在化させ、多職種と連携しながら課題解決を探求する研究力の基礎を涵養する科目群を共通科目（必修科目）に据えて、各専門分野の健康課題に対して<u>対象のニード</u>に沿った看護実践を探求する研究力と看護実践力を有する看護専門職（看護師、保健師、助産師）を養成する課程を構想している。</p>	<p>本研究科は、看護師国家資格取得者（取得見込みも含む）を対象に、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの専門分野を設置し、多様な<u>文化的背景</u>を有する個人・集団・地域の持つ特性を理解し、尊重する国際性と、<u>文化的影響を受ける対象</u>がもつ健康課題を顕在化させ、多職種と連携しながら課題解決を探求する研究力の基礎を涵養する科目群を共通科目（必修科目）に据えて、各専門分野の健康課題に対して<u>文化</u> に沿った看護実践を探求する研究力と看護実践力を有する看護専門職（看護師、保健師、助産師）を養成する課程を構想している。</p>

<p>(18 ページ)</p> <p>そのため、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な人々が暮らすグローバル社会において、<u>対象の多様性を理解し、価値観を尊重する国際性、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を希求し、エビデンスに基づく看護を探究する研究力を修得した人材を育成する。また、リーダーシップをもって多職種と協働し、自国とは異なる</u></p> <p>看護実践や健康支援システムを創造し、全ての人々の健康と幸せに寄与できる看護実践力を持つ人材を育成する。</p>	<p>そのため、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な人々が暮らすグローバル社会において、<u>文化の多様性を理解し、</u> 尊重する国際性、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を希求し、<u>文化的視座をもってエビデンスに基づく看護を探究する研究力を修得した人材を育成する。また、リーダーシップをもって多職種と協働し、自国とは異なる文化に寄り添った看護実践や健康支援システムを創造し、</u>全ての人々の健康と幸せに寄与できる看護実践力を持つ人材を育成する。</p>
<p>(18~19 ページ)</p> <p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、コースツリーを用いて教育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編成、教育内容、教育方法、学習成果の評価については、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①削除</u></p> <p><u>①グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援の多様性への理解を深め、対象の特性や価値観を尊重する国際性を涵養するために、「共通科目」に国際看護の基礎を学修する「研究基盤科目」と新しい視座を持つための「研究関連科目」を配置する。</u></p> <p><u>②看護実践の場に内在する多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力をもって解決する看護を探究する研究力を涵養するために、国際看護学の研究力の基礎を学修する「研究基盤科目」と、研究の新しい視点を学修する「研究関連科目群」を「共通科目」に配置し、修士論文を作成する「特別研究科目」を配置する。</u></p> <p><u>③グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門性かつ独創性のある看護を実践する能力を涵養するために、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』</u></p>	<p>2. カリキュラム・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、共通科目、専門科目、特別研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。また、コースツリーを用いて教育課程の体系性や構造を明示する。教育課程編成、教育内容、教育方法、学習成果の評価については、以下のように方針を定める。</p> <p><u>①教育課程は、国際性と研究力を涵養する「共通科目」、個人・集団・地域の多様性に沿った専門性のある看護実践力を修得する「専門科目」、国際性と専門性をもって健康課題の解決に向けた看護を探究する「特別研究科目」の3区分の科目群で構成される。</u></p> <p><u>②「共通科目」は、国内外のグローバル社会の健康課題を探究する国際性を涵養する「研究基盤科目」と、研究力の基礎を学修する「研究関連科目群」で構成される。</u></p> <p><u>③「専門科目」は、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3分野で構成され、各領域における専門的研究力を基盤として看護職者（看護師、保健師、助産師）としての高度な看護実践力を修得する。</u></p> <p><u>④「特別研究科目」は、「共通科目」と「専門科目」の履修を通して明確になった国際性と専門性のある研究課題を修士論文としてまとめる科目群である。修士論文は、指導教員以外に国際看護学</u></p>

<p>の各分野に「専門科目」を配置する。</p> <p>⑤削除</p> <p>④学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講義では、試験およびレポート課題を中心に評価を行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p> <p>3つのポリシーと教育課程（科目群）の関連を【別添資料7】にまとめる。</p>	<p>研究科教員で組織される研究科委員会において評価する。</p> <p>⑤教育方法は、大手前大学総合学修システム el-Campus や教育・学習支援システム UNIVERSAL PASSPORTEX などの ICT を活用すると同時に、少人数グループによる指導教員との議論を多面的に行う。</p> <p>⑥学習成果の評価基準は、シラバスに明示し、講義では、試験およびレポート課題を中心に評価を行い、演習では、事前自己学習、演習への参加態度、プレゼンテーションなどで評価を行う。</p>
<p>(19 ページ)</p> <p>大手前大学大学院国際看護学研究科の教育課程 共通科目 研究関連科目 備考：5科目中4科目を選択</p>	<p>大手前大学大学院国際看護学研究科の教育課程 共通科目 研究関連科目 備考：選択</p>
<p>(20 ページ)</p> <p>「特別研究科目」には、国際性のある研究力を探求する科目として「看護研究演習」「看護特別研究」の2科目を配置する。</p>	<p>「特別研究科目」には、<u>文化的視座に立った国際性のある研究力と専門的な看護実践</u>を探求する科目として「看護研究演習」「看護特別研究」の2科目を配置する。</p>
<p>(20 ページ)</p> <p>「研究基盤科目」群は「国際看護学特論」「看護学研究方法特論」「国際看護研究特論」「保健データ解析特講」の4科目を1年次前期におき、本研究科での研究を行う上で基礎となる<u>国際看護</u>に関する知識や、<u>対象の多様性</u>を理解、尊重し、国際的視座をもって研究を行う国際看護学研究の能力を修得する。</p>	<p>「研究基盤科目」群は「国際看護学特論」「看護学研究方法特論」「国際看護研究特論」「保健データ解析特講」の4科目を1年次前期におき、本研究科での研究を行う上で基礎となる<u>文化を考慮した看護</u>に関する知識や、<u>多様な文化</u>を理解、尊重し、国際的視座をもって研究を行う国際看護学研究の能力を修得する。</p>
<p>(20～21 ページ)</p> <p>「研究関連科目」群は選択科目の5科目（10単位）で構成され、<u>4科目を選択する</u>。「ジェンダー学特論」「公衆衛生学特論」「デジタルヘルスケア特講」の3科目（6単位）を1年次前期に、「健康栄養学特論」「医療人類学特論」の2科目（4単位）を1年次後期におき、専攻する看護分野の関連科目として履修し、新しい知見や視座を涵養する。</p>	<p>「研究関連科目」群は選択科目の5科目（10単位）で構成され、<u>「ジェンダー学特論」「公衆衛生学特論」「デジタルヘルスケア特講」の3科目（6単位）を1年次前期に、「健康栄養学特論」「医療人類学特論」の2科目（4単位）を1年次後期におき、専攻する看護分野の関連科目として履修し、新しい知見や視座を涵養する。</u></p>
<p>(26 ページ)</p> <p>この科目では、医療機関と行政や地域が一体となって支援に取り組むことで、それぞれの<u>ニード</u>に考慮した切れ目のない地域包括ケアシステム構築につながることを学修する。</p>	<p>この科目では、医療機関と行政や地域が一体となって支援に取り組むことで、それぞれの<u>文化</u>に考慮した切れ目のない地域包括ケアシステム構築につながることを学修する。</p>

<p>(27～29 ページ)</p> <p>DP1. <u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u></p> <p style="text-align: center;"><u>の多様性を理解し、看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観を尊重する国際性を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニードに対する洞察を深め、<u>価値観を尊重する国際性を基盤に課題解決に向けた看護を探究する力を修得すること</u>を述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「国際看護学特論」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、「<u>国際看護研究特論</u>」において英語力の向上と国際看護研究の基礎を学修する。さらに、「<u>看護学研究方法特論</u>」と「<u>保健データ解析特講</u>」で研究力の基礎を学修する。<u>多様な支援を提供する際に必要な、人権意識や</u> 価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「医療人類学特論」で学修するほか、「ジェンダー学特論」や「公衆衛生学特論」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「専門科目」（選択科目）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含めて理解し、<u>対象のニードに沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</u></p> <p>DP2. <u>看護実践の場</u></p> <p>に内在する<u>多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって</u> 探求し、<u>グローバルな視点</u></p> <p style="text-align: center;"><u>によって 様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づいて <u>看護実践を探究する研究力を</u></p>	<p>DP1. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u></p> <p style="text-align: center;"><u>を尊重する国際性を涵養している。</u></p> <p>本ポリシーでは、地球を一つの地域と捉えて、多様な地域に暮らす個人・集団・地域がもつ<u>文化や</u> 特性を理解・尊重し、そこに内包する健康課題やニードに対する洞察を深め、</p> <p style="text-align: center;"><u>課題解決に向けた看護を探究する力を修得すること</u>を述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。</p> <p>共通科目の「研究基盤科目」（必修科目）である「国際看護学特論」において国際社会の様相と人々の健康課題の解決に向けたエビデンスに基づく国際看護学活動を学修する。また、</p> <p style="text-align: center;"><u>多様な支援を提供する際に必要な、人権意識と文化、価値観等を尊重する視座は、「研究関連科目」（選択科目）である「医療人類学特論」で学修するほか、「ジェンダー学特論」や「公衆衛生学特論」においても多様性への理解を深め、健康に影響を及ぼす地域性や文化・習慣などの要因を科学的に分析する能力を修得する。さらに、「専門科目」（選択科目）の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の各分野において、グローバル社会に暮らす日本人と外国人労働者を含む定住外国人やその家族の健康課題を、妊娠・出産・子育て期を含めて理解し、文化</u> に沿った看護実践が提供できる力を修得するための科目を複数配置する。</p> <p>DP2. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域</u></p> <p>に内在する <u>健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u></p> <p style="text-align: center;"><u>によって、様々な健康課題の解決に向けた看護を探究する研究力を修得している。</u></p> <p>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす人々の健康課題を環境や事象を含めて俯瞰的に捉え、複雑に絡まる諸要因を分析することで課題解決のベクトルとなるエビデンスを抽出し、科学的根拠に基づき<u>文化に沿った看護実践を探究する研究力を</u></p>
--	--

修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。

全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。

加えて、「研究関連科目」に「公衆衛生学特論」「健康栄養学特論」「デジタルヘルスケア特講」を配置し、新しい視点の研究を行う研究力を涵養する。さらに、「専門科目」(選択科目)の「人口学特講」「保健統計論」「疫学特講」「公衆衛生看護学レビュー」「助産研究レビュー」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。

DP3. グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性

のある看護

実践力を修得している。

本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える諸要因

を理解し、専門分野の知識や技術を用いて

多

様性のある個人・集団・地域を対象にして、創造性のある健康支援に取り組む看護実践力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。

専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「専門科目」(選択科目)の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「特別研究科目」で専門性

修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。

全ての学生が1年次前期より履修する「研究基盤科目」(必修科目)の「看護学研究方法特論」「保健データ解析特講」と「特別研究科目」(必修科目)の「看護研究演習」において、先行研究を基にした研究課題の抽出、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査の受審などの研究のプロセスを学修する。また、2年次には「看護特別研究」において、データ収集、データ分析、修士論文の作成、成果の報告などの研究プロセスを学修し、各専門領域における科学的根拠に基づいた文化に沿った看護を探求する能力を修得する。

さらに、「専門科目」(選択科目)の「人口学特講」「保健統計論」「疫学特講」「公衆衛生看護学レビュー」「助産研究レビュー」において、大規模調査研究のデータ分析や解釈等の理解を深め、国際的な看護研究の推進に貢献する研究力を修得する。

DP3. グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探索し、創造性のある看護実践力を修得している。

本ポリシーでは、多様化・複雑化するグローバル社会の中では人々の価値観や生き方は複雑多岐になるため、それに伴う重層した健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を理解し、高度な職業的倫理観や使命感を持ち、行政、NGO、国際機関等の多職種と協働し、リーダーシップをもって多様性のある個人・集団・地域を対象にした

健康支援に取り組む看護実践力を修得することを述べている。このポリシーを達成するために、以下の科目を配置する。

専門性の高い看護実践力を修得するための科目は「専門科目」(選択科目)の『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学』の各分野に配置されたすべての科目であり、学生は自身が希望する専門性を修得できる科目を選択する。さらに、研究力を基盤とした看護実践力を修得するために、「特別研究科目」で専門性

<p>の高い研究を行う。</p> <p>DP4. 削除</p>	<p>の高い研究を行う。</p> <p>DP4. <u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもつて多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得している。</u></p> <p><u>本ポリシーでは、グローバル社会に暮らす全ての人々の健康課題を洞察し、科学的根拠をもって創造性のある地域包括ケアシステムを構築し、多職種や各種団体、組織、行政と協働し、官民一体となって、国内外の人々の健康と QOL に貢献するためのリーダーシップ力、組織力、政治力を修得することを述べている。</u></p> <p><u>このポリシーは、DP 1、DP 2、DP 3 に関連する科目を有機的に履修することで、達成される。</u></p>
<p>(29 ページ)</p> <p>本研究科では、グローバル社会に暮らす多様な人々が有する<u>価値観や生活習慣</u>を理解、尊重し、その健康課題を顕在化し、課題解決するための国際性と研究力を基盤として、<u>新たな看護や健康支援サービス</u>を探究し、切れ目のない継続的な医療・看護を提供することで人々の健康と幸せに貢献する人材を養成するために、以下の教育課程と内容で教育を展開する【別添資料 8】。</p>	<p>本研究科では、グローバル社会に暮らす多様な人々が有する<u>文化</u>を理解、尊重し、その健康課題を顕在化し、課題解決するための国際性と研究力を基盤として、<u>文化に配慮した新たな看護や健康支援サービス</u>を探究し、切れ目のない継続的な医療・看護を提供することで人々の健康と幸せに貢献する人材を養成するために、以下の教育課程と内容で教育を展開する【別添資料 7】。</p>
<p>(38~39 ページ)</p> <p>グローバル社会に暮らす多様な人々を対象とし、個人・集団・地域がもつ<u>価値観や生活習慣</u>の多様性を理解・尊重し、それぞれがもつ<u>多様性を考慮した看護実践の学問である国際看護学の研究と教育を展開する</u>本研究科の基礎となる学部学科は、国際看護学部看護学科である。</p> <p>国際看護学部では、大手前大学の考える国際看護学の定義に従い、基礎的看護技術、多様性の理解、グローバルコミュニケーション能力を涵養し、ミクロの視点での国際看護学を教育している。一方、本研究科では学部教育での国際看護学を基礎として、<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ価値観や生活習慣の多様性を理解し、人権を尊重する国際性、疾病構造や健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力、多職種と連携しながら対象のニードに沿った看護を具現化できる専門性のある看護実践力の 3 要素を修得させる個人・集団・地域を包括したマクロな視点での国際看護学を教育する【別添資料 13】。</u></p>	<p>グローバル社会に暮らす多様な人々を対象とし、個人・集団・地域がもつ<u>異なる文化や</u>多様性を理解・尊重し、それぞれがもつ<u>文化に</u>考慮した看護実践の学問である国際看護学の研究と教育を展開する本研究科の基礎となる学部学科は、国際看護学部看護学科である。</p> <p>国際看護学部では、大手前大学の考える国際看護学の定義に従い、基礎的看護技術、多様性の理解、グローバルコミュニケーション能力を涵養し、ミクロの視点での国際看護学を教育している。一方、本研究科では学部教育での国際看護学を基礎として、<u>文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し</u></p> <p>人権を尊重する国際性、疾病構造や健康課題に影響を与える諸要因を顕在化させる研究力、多職種と連携しながら対象の<u>文化</u>に沿った看護を具現化できる専門性のある看護実践力の 3 要素を修得させる個人・集団・地域を包括したマクロな視点での国際看護学を教育する【別添資料 12】。</p>

<p>(57 ページ)</p> <p>本研究科では、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な人々が暮らすグローバル社会において、<u>個人・集団・地域がもつ多様性に関心をもち</u>、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を希求し、エビデンスに基づいた看護の研究能力を修得し、多職種と協働しながら、<u>対象のニードに沿った看護の探求と新たな健康支援システムを創造し</u>、全ての人々の健康と幸せに寄与する看護職のリーダーや看護管理職、教育研究者、看護系教員、看護系行政職等として活躍する人材を養成するため、主体的に自立して学問を探求する人を受け入れる。</p>	<p>本研究科では、看護の専門的知識と技術を根幹に据えて、多様な人々が暮らすグローバル社会において、<u>自国とは異なる多様な文化への理解を涵養し</u>、高潔な倫理観と人権意識、使命感と高い志をもって包摂社会を希求し、エビデンスに基づいた看護の研究能力を修得し、多職種と協働しながら、<u>文化的視座による</u> 看護の探求と新たな健康支援システムを創造し、全ての人々の健康と幸せに寄与する看護職のリーダーや看護管理職、教育研究者、看護系教員、看護系行政職、政治家等として活躍する人材を養成するため、主体的に自立して学問を探求する人を受け入れる。</p>
<p>(57 ページ)</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの分野を基軸に、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性を包括的にとらえ、事象の分析力や客観性を培い、科学的思考をもって課題解決に取り組み、<u>対象のニードに沿った看護を</u>探求する看護職、および時代によって変容する社会に対応できる公衆衛生看護学や助産学の知識・技術を有した保健師および助産師を養成することを目的とする。</p>	<p>国際看護学研究科看護学専攻では、『看護実践科学分野』『公衆衛生看護実践科学分野』『助産実践科学分野』の3つの分野を基軸に、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ<u>文化の多様性</u>を包括的にとらえ、事象の分析力や客観性を培い、科学的思考をもって課題解決に取り組み、<u>文化</u>に沿った看護を探求する看護職、および時代によって変容する社会に対応できる公衆衛生看護学や助産学の知識・技術を有した保健師および助産師を養成することを目的とする。</p>
<p>(57~58 ページ)</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域が有する多様な特性を理解・尊重し、そこに暮らす人々が、QOL (クオリティオブライフ) を維持しながら豊かで安寧な生活が送れるように、看護の理論と実践に基づいた課題解決能力を培い、<u>対象のニード</u>に沿った看護を探求し、人々の健康と看護学の発展に寄与する人材を養成する。</p>	<p>国際看護学研究科看護学専攻では、グローバル社会に暮らす個人・集団・地域が有する多様な<u>文化</u>や特性を理解・尊重し、そこに暮らす人々が、QOL (クオリティオブライフ) を維持しながら豊かで安寧な生活が送れるように、看護の理論と実践に基づいた課題解決能力を培い、<u>それぞれの文化</u>に沿った看護を探求し、人々の健康と看護学の発展に寄与する人材を養成する。</p>
<p>(58 ページ)</p> <p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に内在する多様な健康課題に高い</u> 関心をもち、研究的視点によって<u>看護を</u>探求し、<u>看護実践の向上に取り組む</u> 意欲のある者。</p> <p>③<u>看護実践に根差した研究能力を修得し、</u></p>	<p>2-3 アドミッション・ポリシー</p> <p>国際看護学研究科看護学専攻では、上記の目的を達成するために、以下のような人物を求める。</p> <p>①看護師免許取得者（見込みを含む）で、看護師としての基本的な知識や技術を有し、研究科での学修や研究のために必要な基礎的英語能力を有する者。</p> <p>②<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化の多様性に関心をもち</u>、研究的視点によって、<u>それぞれの文化に</u>寄り添う看護を探求することに<u>高い関心と意欲のある者。</u></p> <p>③<u>看護の対象に影響を与える文化や社会、政治、</u></p>

<p>広く俯瞰的に物事を捉え、<u>将来にわたって看護を探究する</u>意欲のある者。</p> <p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤ <u>グローバル社会</u>に暮らす多様な人々への健康支援に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする者。</p> <p>⑥グローバル社会に暮らす多様な女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保健の向上に強い関心を持ち、<u>対象のニード</u>に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。</p>	<p>経済に関心を持ち、広く俯瞰的に物事を捉え、<u>文化に沿った看護を探究する研究力を修得すること</u>に意欲のある者。</p> <p>④看護職としての経験を通して、グローバル社会に対応した専門性のある看護実践能力の修得に意欲のある者。</p> <p>⑤<u>超少子高齢社会を内在したグローバル社会の様相とそこに暮らす多様な文化を有する人々への健康支援</u>に強い関心を持ち、包摂社会の形成に向けて取り組む公衆衛生看護実践科学を学ぼうとする者。</p> <p>⑥グローバル社会に暮らす多様な文化を有する女性や子どもの健康支援に加えて、国内外の母子保健の向上に強い関心を持ち、<u>それぞれの文化</u>に寄り添った助産実践科学を学ぼうとする者。</p>
--	---

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>3</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>①<u>グローバル社会における看護実践の基盤となる保健・医療・看護や健康支援</u>の多様性を理解し、<u>看護や医療に関する幅広い知識と倫理観を持って対象の価値観</u>を尊重する国際性を<u>修得</u>している。</p> <p>②<u>看護実践の場</u>に内在する<u>多様な健康課題を科学的分析力や論理的思考力によって探求し、グローバルな視点によって様々な健康課題の改善に取り組むための基礎的研究力を修得</u>している。</p> <p>③<u>グローバル社会に内在する健康課題の解決に向けて、専門分野の知識・技術の理解と研究を通して、専門性と独創性</u>のある看護実践力を修得している。</p> <p>④(削除)</p>	<p>具体的には、本研究科では、以下の <u>4</u> つの基準に達している者に修士 (看護学) の学位を授与する (ディプロマポリシー)。</p> <p>①<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ文化的背景によって醸成された価値観や生活習慣、規範、宗教等の多様性を理解し、人権</u>を尊重する国際性を<u>涵養</u>している。</p> <p>②<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域に内在する健康課題を洞察し、科学的分析力や論理的思考力</u>によって、<u>様々な健康課題の解決に向けた看護を探究する研究力を修得</u>している。</p> <p>③<u>グローバル社会に内在する健康課題に影響を与える行政システム、政治、経済、自然環境、民族固有の文化や価値観等を包括的に理解した上で健康課題の解決策を探求し、創造性のある看護実践力を修得</u>している。</p> <p>④<u>グローバル社会に暮らす個人・集団・地域がもつ多様性に対応でき、リーダーシップをもって多職種連携を図り、科学的エビデンスに基づく専門性のある看護実践や新たな健康支援システムの構築に取り組む能力を修得</u>している。</p>